

国語科学習指導案

授業日 令和7年11月28日(金)
 学習者 4年3組 30名
 授業者 阪本 智

- 1 単元名 中心となる語や文を見つけて要約し、調べたことを書こう
 教材名 「未来につなぐ工芸品」「工芸品のみりよくを伝えよう」

2 単元の目標

- ◎事典の使い方を理解し使うことができる。(知(2)イ)
- ◎自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。(思B(1)ウ)
- ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。(思C(1)ウ)
- 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付くことができる。(知(3)オ)

3 単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・事典の使い方を理解し使っている。((2)イ) ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。((3)オ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C(1)ウ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に、中心となる語や文を見つけて要約したり、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫したりして、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。

4 単元計画と学習評価(全13時間) ※事前に第0次を2時間実施 ※書写「リーフレットの書き方」を合わせて実施

	時	学習内容	学習評価(知・思・主)＜方法＞	個	全
第0次	1	・上巻付録「あせのやくわり」を読み、要約文を書くという見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の学習の見通しをもって学習計画を立て、教材文を読んで学んだことをリーフレット作りに生かそうとしている。(主)＜観察・発言＞ 	○	○
	2	・筆者の考え、重要な語句を捉え、「あせのやくわり」を200字程度で要約する。		○	○
第一次	1	<ul style="list-style-type: none"> ・教材文を読み、200字以内の要約文を書くという見通しをもつ。 ・授業構想シートを使用し、学習計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。(知)＜観察・発言＞ ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(思)＜記述＞ ・積極的に中心となる語や文を見つけて要約し、学習の見通しを持って、筆者の考えについて考えたことを伝え合おうとしている。(主)＜観察・記述＞ 		○
	2	・各段落の中心文と、筆者の考えを捉える。		○	○
	3	・中心文の内容を基に、文章を「はじめ、中、終わり」に分ける。		○	○
	4	・「中」で挙げている事例とその効果をとらえる		○	○
	5	・要約文づくり①…条件や要約の際のポイントを確認し、要約文を書く。		○	○
	6 本時	・要約文づくり②…既習事項やルーブリックを基に、要約文を完成させる。		○	○
	7	・自分の考えの記入と交流を行う。また、伝統工芸に関する読み物を読む。		○	○
第二次	8	・興味をもった工芸品についてリーフレットにまとめるという、学習の見通しをもつ。	<ul style="list-style-type: none"> ・事典の使い方を理解し使っている。(知)＜観察・発言＞ ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。(思)＜記述＞ ・積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫して、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。(主)＜観察・記述＞ ・学んだことをいかし、今後文章を書くときには、伝えたいことを分かりやすく書く工夫をしようとしている。(主)＜観察・発言＞ 		○
	9	・工芸品について書かれた本を読み、紹介する内容を考える。		○	
	10	・リーフレットの構成と、資料の使い方を考える。		○	○
	11	・リーフレットの下書きをする。		○	
	12	・リーフレットの清書をし、完成させる。		○	
	13	・リーフレットを読み合い、感想を伝え合う。単元の振り返りを行う。			○

5 本時でめざす子どもの姿

既習事項やルーブリックを基に、要約文を完成させることができる。【思】＜記述＞

6 仮説との関連

① 「学びのデザイン」をし、自己評価をすることで、主体的に学習しようとするための工夫（仮説1）

- ・「思いやりのデザイン」「アップとルーズで伝える」「あせのやくわり」の3つの説明文を要約した学習を既習事項とし、課題解決のための具体的な手立てや到達目標について、明確に見通しをもたせる。
- ・ルーブリックを活用し、説明文の要約に必要な事柄を具体的に提示する。

以上、2つの手立てにより、児童が主体的に学習し、単元の目標の達成を通じた自己実現ができることを目指す。

② 他者との関わり合いをもつことで、より「深い学び」を探究しようとするための手立て（仮説2）

- ・自力解決の時間を多く設け、個人か協働を選択可とすることで常時他者との交流の機会を保障する。また、ルーブリックを明確に提示することで、互いの到達状況に関して児童間で交流や助言を活発に行うことができる。
- ・他者と関わる機会の充実により、互いの取組を高め合い、より深い学びに至ることを目指す。

7 本時の学習展開（6／13）

	児童の学習活動	評価□ 留意点※
導入 5分	<p>○前時までの振り返り</p> <p>○課題の確認</p> <p>㊦要約文を完成させよう。</p> <p>○要約文に必要な事柄を確認する。</p> <p>要約文に大切なことは何か、ペアで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを入れる。・重要な言葉と、その説明を入れる。 ・段落の中心文から、大事な部分を組み合わせる。 ・文章が読みやすくなるように、必要な言葉を加えたり、文字数を少なく言い換えたりする。 	<p>※児童が主体的にアウトプットすることを通して、既習事項である「要約文に必要な事柄」を改めて共通理解にする。</p>
展開 37分	<p>○自力解決＜個人 or 協働は選択可＞（12分）</p> <p>要約文に大切なことに気を付け、要約文を作成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の考えを入れよう。 ・二つの理由を書こう。でも、具体的な例の部分はカットしよう。 ・「工芸品」とは何か、の説明が重要だと思う。 ・文字数を減らすために、二つの文章を組み合わせたり、意味を変えずに言い換えたりしよう。 ・「一人の職人」とはどういうことかを、短い文章で説明しよう。 <p>○ペア交流（5分）</p> <p>「自分が悩んでいること」について友達と交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読んでみて、意味が通じないところがないかどうか教えてほしい。 ・この部分の文章の意味を変えないまま、文字数を少なく言い換えるにはどうしたらいいかな。 <p>○自力解決（15分）</p> <p>残り時間で要約文を完成させる。</p> <p>○全体交流（5分）</p> <p>特により取組の児童の要約文を何点か紹介する。</p>	<p>※自力解決の時間を多く設け、個人か協働を選択可とする。交流の際は、ルーブリックによる共通事項を拠り所とする。</p> <p>※「オクリンクプラス」を活用し、コピー＆ペースト操作で文章を書く方法と、前時までに活用している全文シートを元に、一から文章を打ち込む方法のどちらも認め、選択できるようにする。</p> <p>※自力解決の難しい児童には、使用する文章をあらかじめ打ち込んである「ヒントカード」を配付する（第5時の取組の様子を見て、事前に児童と相談し、本時の前に配付済み）。児童の困難具合に応じて、二段階のヒントカードを用意する。</p> <p>※統一したタイミングでペア交流を行うことで、自力解決の集中力を高く保つことや、客観的な視点を入れて自身の要約文の出来を精査することをねらう。</p> <p>□「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。（思）＜記述＞</p> <p>□積極的に、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、学習の見通しをもって、書き表し方を工夫して、調べて分かったことをまとめて書こうとしている。（主）＜観察・記述＞</p>
終末 3分	<p>○本時の振り返りと次時の予告</p> <p>次時の見通し…要約することを通して、筆者の考えについて、自分はどう思ったかを考える。</p>	<p>※口頭での振り返り。</p>

学びスタート!

みんなで考えたい問い

単元の課題の確認

**「未来につなぐ工芸品」を
読み、200字以内に要約
しよう！！**

いつ・どんな場で
発表しますか？

だれに発表したい
ですか？

学習の最後

クラスの
友達

- ・要約する時に、大切なことは何だ？
 - ・これまでの学習を生かして...
 - ・今までに要約してきた説明文は三つ
- ①思いやりのデザイン
 - ②アップとルーズで伝える
 - ③あせのやくわり

學習內容

- ①「未来につなぐ工芸品」を読み、200字以内の要約文を書くという見通しをもつ。
- ②各だん落の「中心文」と、「筆者の考え」を捉える。
- ③中心文に書かれていることをもとに、文章を「はじめ、中、終わり」に分ける。
- ④「中」で挙げている事例とその効果を捉える。
- ⑤要約文づくり①…「要約文に大切なこと」やキーワードを確認し、要約文を書く。
- ⑥要約文づくり②…「要約文に大切なこと」を元に交流し、要約文を完成させる。
- ⑦自分の考えの記入と交流を行う。また、伝統工芸に関する読み物を読む。

何で作りますか？
何をしますか？

オクリンクに
自分の考えを
書く

評價

[illegible]

◆要約文 ポイントと例

△未来につながる工芸品▽

A〽「**言いかえ**」を使って200字以内にまとめられており、必要なことが書かれ、読みやすい文章になっている。

B〽250字以内にまとめられており、必要なことが書かれ、意味の通じる文章になっている。

C〽250字以上、必要なことが書かれていない、正しい文章でない。

例1 「思いやりのデザイン」 742字→112字

重要な言葉とその説明

筆者の考え

伝えたいことを、絵や図、文字を組み合わせで見える形にしたものがインフォグラフィックスです。それを作るときには、相手の目的に合わせて、どう見えると分かりやすいのかを考えながらデザインすることが大切と、筆者は考えています。

※青字…付け足しや、言いかえた言葉



例2 「アップとルーズで伝える」 1351字→199字

重要な言葉とその説明

「中」の大事な部分

筆者の考え

写真やえいぞうをうつすとき、広い画面をうつすとり方を「ルーズ」といい、ある部分を大きくうつすとり方を「アップ」といいます。

アップは細かい部分の様子がよく分かり、ルーズは広い画面の様子がよく分かります。同じ場面でも、どちらのとり方で伝えるかによって、伝わる内容がかわる場合があります。

なので、何かを伝えるときには、このアップとルーズを選んだり、組み合わせたりすることが大切と、筆者は考えています。

※青字…付け足しや、言いかえた言葉



例3 「あせのやくわり」 931字→199字

筆者の考え

重要な言葉とその説明

筆者の考え

あせをかくことは、命を守るうえで大切だと、筆者は考えています。体温が四十二度をこえると、命に関わるほどの重い熱中症につながります。

人の脳は、体温の上昇を感じると、ひふのかんせんという器官に、「あせを出せ」という命令を出します。

そして、あせがひふからじょうはつすること、体温が上がりすぎるのを防いでいます。

このように、あせは、体温が上がりすぎることから、人の命を守る大切な役わりを果たしています。

※青字…付け足しや、言いかえた言葉

